

個別注記表

重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

A. 市場価格のない株式等以外のもの

決算日の市場価格などに基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

B. 市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法

時価法

3. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 原材料及び貯蔵品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)

(2) 仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額は、収益性の低下による簿価切り下げの方法により算定)

4. 固定資産の減価償却方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とする定額法を採用しております。残存価額については、リース契約上に残価保証の取り決めがあるものは当該残価保証額とし、その他のものについては零としております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権に対する貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支払に備えるため、当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与の支払に備えるため、当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

(4) 保証工事引当金

請負工事に対する補修費用の支出に備えるため、過去の実績を基礎に、将来の発生見込額を加味した金額を計上しております。

(5) 受注工事損失引当金

受注工事の損失発生に備えるため、手持ち受注工事の損失見込額を計上しております。

(6) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌期から費用処理することとしております。

(7) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支払に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

6. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容および収益を認識する通常の時点は以下のとおりであります。

(1) 製品の販売

製品の販売にかかる収益については、主として顧客が当該製品に対する支配を獲得する製品の引渡時点において履行義務が充足されると判断しており、通常は製品の引渡時点で認識しています。

(2) 工事契約

一定期間にわたって履行義務が充足される工事契約による収益については、顧客に提供する当該履行義務の充足に向けての進捗度を測定して収益を認識しています。進捗度の測定においては、履行義務の充足のために発生した費用が、当該履行義務充足のために予想される総費用に占める割合に基づき見積もっています。履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積もることができないが、発生する費用を回収することが見込まれる場合は、原価回収基準にて収益を認識しています。

7. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

為替予約について繰延ヘッジ処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

為替予約をヘッジ手段とし、予定取引をヘッジ対象としております。

(3) ヘッジ方針

為替変動リスクを避けるため、外貨支払予定額の範囲内で為替予約取引を行っております。

(4) ヘッジの有効性評価の方法

為替予約は、すべて材料などの購入予定に基づくもので、キャッシュ・フローを固定化するものであるため、有効性の評価を省略しております。

8. 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

9. 連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用

「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取り扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取り扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいています。

なお、翌事業年度の期首から、グループ通算制度を適用する場合における法人税および地方法人税並びに税効果会計の会計処理および開示の取扱いを定めた「グループ通算制度を適用する場合の会計処理および開示に関する取り扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日)を適用する予定です。

会計方針の変更に関する注記

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、時価算定基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用しております。これによる計算書類に与える影響はありません。

会計上の見積りに関する注記

会計上の見積りにより当事業年度に係る計算書類にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る計算書類に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりです。

繰延税金資産 3,462,186千円

貸借対照表に関する注記

1. 固定資産の減価償却累計額	
有形固定資産	8,528,896千円
2. 関係会社に対する金銭債権・債務	
関係会社に対する短期金銭債権	10,877,952千円
関係会社に対する短期金銭債務	1,565,113千円
関係会社に対する長期金銭債権	-千円
関係会社に対する長期金銭債務	313,608千円
3. 保証債務等	
従業員の金融機関借入金に対する保証	150,784千円

損益計算書に関する注記

1. 関係会社との取引	
営業取引高	
売上高	429,540千円
仕入高	651,622千円
その他の営業取引高	972,918千円
営業取引以外の取引高	1,400,009千円
2. 研究開発費の総額	667,758千円

株主資本等変動計算書に関する注記

- 発行済株式総数 41株
- 新株予約権等に関する事項
該当事項はありません。
- 配当に関する事項
(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年6月22日 定時株主総会	普通株式	3,986,332	97,227,618	2021年3月31日	2021年6月30日
2021年11月29日 取締役会	普通株式	1,112,305	27,129,407	2021年9月30日	2021年12月30日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議	株式の種類	配当金の 総額(千円)	1株当たり 配当額(円)	配当の 原資	基準日	効力発生日
2022年6月27日 定時株主総会	普通株式	3,028,148	73,857,276	利益 剰余金	2022年3月31日	2022年6月30日

税効果会計に関する注記

(繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因)

繰延税金資産の発生の主な原因は、退職給付引当金に係わるものであり、繰延税金負債の発生の主な原因は、有価証券評価損に係わるものです。

金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定し、また短期的な運転資金を銀行等金融機関からの借入れにより調達しております。

受取手形および売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規定に沿ってリスク低減を図っております。

また、投資有価証券は主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

デリバティブ取引は、将来の為替変動リスクを回避する目的としており、投機目的のための取引は実施しない方針であります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2022年3月31日における貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次の通りであります。

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(資産)			
投資有価証券	160,891	160,891	—
(負債)			
(デリバティブ取引) (※1)			
ヘッジ会計が適用されているもの	(49,818)	(49,818)	—
ヘッジ会計が適用されていないもの	—	—	—
デリバティブ取引計	(49,818)	(49,818)	—

※ 1 デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる場合は () で表示する方法によっております。

(注) 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券およびデリバティブ取引に関する事項

(1) 「現金及び預金」、「受取手形」、「電子記録債権」、「売掛金」、「契約資産」、「短期貸付金」、「支払手形」および「買掛金」については、現金であること、および短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、記載を省略しております。

(2) 「投資有価証券」

時価について、株式は取引所の価格によっております。また、非上場株式(貸借対照表計上額 260,491 千円)については、市場価格のない株式等であることから、当該投資有価証券には含めておりません。

(3) デリバティブ取引

為替予約取引の時価については、取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。なお、ヘッジ会計の方法については「重要な会計方針に係る事項に関する注記 7.ヘッジ会計の方法」に記載の通りであります。

関連当事者との取引に関する注記

(1) 親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称または氏名	所在地	資本金または出資金(百万円)	事業の内容または職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
親会社	株式会社 I H I	東京都江東区	107,165	総合重工業	被所有100.0	製品の販売・材料等の仕入・余資運用・運転資金の借入	連結納税等の未払金	—	未払金	776,974
							余資運用	—	短期貸付金	8,823,951
							受取利息	5,614	—	—

- (注) 1. 取引金額には消費税などを含まず、期末残高には消費税などが含まれております。
2. 取引条件ないし取引条件の決定方針などについては、余資運用は貸付金額と期間により、市場実勢金利などを勘案して決定しており、その他案件毎に見積書を提出して価格交渉のうえ、一般的取引条件と同様に決定しております。
3. 短期貸付金・短期借入金につきましては、キャッシュマネジメントシステムの契約を締結しており、資金の貸付・回収・借入を繰り返し行なっておりますので、取引金額の記載を省略しております。

(2) 子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称または氏名	所在地	資本金または出資金(百万NTD)	事業の内容または職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
子会社	台湾石川島運搬機械股份有限公司	Taiwan	250	大型運搬機械の製造、販売、メンテナンス	所有100.0	資金の援助および運搬機械の製造、販売、メンテナンス	材料の仕入	—	前渡金	1,694,012

- (注) 1. 取引金額には消費税などを含まず、期末残高には消費税などが含まれております。
2. 取引条件ないし取引条件の決定方針などについては、案件毎に見積書を提出して価格交渉のうえ、一般的取引条件と同様に決定しております。
3. 台湾石川島運搬機械股份有限公司は、債務超過のため、貸倒引当金繰入額 150,860 千円を当事業年度に計上しております。

(3) 兄弟会社等

種類	会社等の名称または氏名	所在地	資本金または出資金(百万円)	事業の内容または職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
親会社の子会社	株式会社 IHI トレーディング	東京都千代田区	200	産業用各種機械の販売	—	製品の販売および修理・点検	製品の販売	1,523,701	売掛金	68,168
									契約資産	788,266

- (注) 1. 取引金額には消費税などを含まず、期末残高には消費税などが含まれております。
2. 取引条件ないし取引条件の決定方針などについては、案件毎に見積書を提出して価格交渉のうえ、一般的取引条件と同様に決定しております。

1 株当たり情報に関する注記

1 株当たり純資産額	569,308,762 円 63 銭
1 株当たり当期純利益	123,095,460 円 83 銭

重要な後発事象

該当事項はありません。

収益認識に関する注記

「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「6. 収益及び費用の計上基準」の記載のとおりである。

(注) 本計算書類の作成にあたり、記載金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。ただし、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益は、銭未満を四捨五入しております。